益 々 元 気 に 益 々 楽

と終

秋わ

のり

気を

配告

をげ

感よ

じう

鈴

木

精

成

し "うのこ

岳精流日本吟院

田 代 岳 弘 報

指 第 標 亚 2 月 成 千 つ吟吟い田がのお日「準会理」とる取っと伝すとつ ひのを員

教層しととぞ 場別よしでれ私とこ会のあた詠詠た」、感世ン全備」解昇思場り昇でを。強も 工導と `あ教ちま `にがで思い合ま皆日のい盛吟さ日て審ましむ審たた員意が `て場まにっとれ招開いまれコたの会葉だ上大`もさ'。`吟' 独日いがせあ吟思もき催たすもン °素へはいが会 自くる独んる活いとし地て 。 "クー晴駆言たり i 性「こ自がこ動まててのと が男との `と」すも楽地で 発女で発最はの『懐し元す 揮別す想近改拠 かんのが さ指 °に感め点 しで親、 れ導日よずてが く頂族当 て一くりる申、 嬉い、日 い等「運こすそ した友、 る々階営とこれ いと人会

成

ü

岳

糖

の指うてはのたこと場方とと ``しの当謝話の国下のし伝いと組伝し果全いな - し教り場のだこお`聞いず吟し様大言たり道い程下査すて﹁査゜さの識ら れ方をの いいを今としと た々感、 ず。前回てへい こがじ受 れ、進もものう と見た審 発来へ 、大真の は事そ者 表年のそ事摯は 本昇のの さの大しなな、 当級刻皆 れ「事てチ姿日 に `をさ ま昇な今ャを頃 嬉昇想ん す伝機後ン表自 し段起の い、し緊 °審会もス現分 ご査と だすが こ昇ま張

会に「ろしを月」ると と一昇い、今眺 銀候し猛

し九伝ろこ年め蘇漢とて暑 て一審なのもる軾声なおの

過の会き私い刻のくま `も

去方」がたもも通玉し日や 最がへあちの嬉り盤た一つ

高受四りのでし、を°日と

"月すに¬

にを。輝中

く秋

月の

の審月ま "もい仰転

人さ甘し吟う瞬ぐず

数れ七た活八間夜"

で、日。動かで空へ

も経

い渦

しこ

たれに °はは

お当実

名査動間早一一なりり夏

りわつ「実プ別をす お "と会へ縁吟お一 でらと吟施がれ" 。二願会すとの 、詠迎月まな私" 工場皆と すらて期し°今多ト°り ° に待てそ年くは 本な優し `れはの十 0 当ど先ま有ぞ二方月 にのしす意れグにの 嬉声¬°義のル吟温 しが吟 なグー詠習 い相と 会ルプ機会

限変も

記し般らけい三はn

憶ル合しつ尽河予三

にで吟いけく岳想河

残ので心たせ精以し

る元の意我ぬ会上へ

" 気精気がほので六

も一一に「ど皆し月

の杯杯感千で様た十

だのの動代すへ。五

すず早のさ独てと"つい員るし親地講え廿ずイどで夫所さは °寄く楽れ自のの出目い一もてし縁座し日一べもすのがん大 せ出しま性開企来のた人の `みの」て、つンの °無つがい ら会みすを催画るイレがで多と多で初木目トー いく、に れつがよ生でかだべまひすく関くすめごのを千 とら今歓 また全うかすらけンすと°の心の°ての大二代 これ日迎 参を皆この宗きつ田 ろる吟で 加持様れ開家な予し にこじす をつには催横イ定は 新とて° 呼て ` `と山べし ` たが良出 びい漢私な精ンてこ な大か席 かた詩どる真ト進れ 進事っす けだ、も「先はみか 展でたる よく吟の漢生 `まら はすと会 う機詠人詩を十す大 な。い員



星野 久風 (清水)

を一に会で

積

極

取

組

3

を

平 成成 六 度

全音 玉

謝会制朝皆設れ前度で宗二晴つで関て勢でお員の一 が昨 扣年 当の し大 開会 催終 す了 る後 ٤, 発来 表年 がは あ三 り河 ま岳 し精

身柄市

近上

なよに

所く参

と名加

思古し

つ屋た

たへい

こ行と

とく思

が事っ

発がた

をが限のさ営てか目の家〇れもは東までしり数開年 贈立さ駅んかいらと開の名間の `一い参た `が催前 り派れ、はらま会紹催「がのル」都り加。十三がの たにた路当運すを介は六集刈しR四まし当一〇幾千 °挙さ `月ま谷ト新県しよ会月〇つ代 げれ北のり市で幹にたうでに名か田 て、九こま総六線会。ともはにのの 教干遂泊教状 場代にり場況

め体年て会会

毎田大、では にに台熱取、 準相に気り無 備応達に組料 をしし満ま講

丨梅場千 へ雨で代 始いたちれ習 りを舞きと女会_ 端多の大 °け経とこ表子 ` °い仕刈 か事谷

し験思とと代勝 たさっがし表村 のせた楽てと忠 でてのし合し山 は頂でみ吟て教 なきすでコ、場 い皆が皆ン花長 かさ、さク山が とん図ん|龍千 思にらのル桜代 つごず吟に先田

て迷もを出生岳

お惑大聴るが精

は揃した入での吟役たた「百翌場世大野会ご生ま大まお台たい子のまでいも会 女ったが賞し吟へ員 。つ「席日長話変幸長さ、し会す掛をいう代男たすせ、へ 子て 。: 出た詠三の特ぷアの六と戴幸泉 `せ勝た前 がい女。来。~~合にりイ近月もいせ先磯て村。日 有る子優な千四第吟印とリ代十おてと生田頂教約 利感の勝か代ン五(象詩ス的五話い思と精き場三「 かじ方・つ田第部二に吟」な日するい親信ま長時こ とかは二た岳二少一残をで刈、る花まし先しの間だ 感し声位の精部壮副っ聴一谷天こ山すく生たおのま じまも・が会の吟幹たく〇市候と先 °お ` °心車^し まし華三非男合士事のこ時総にが生そ話菊ま使中で したや位常子吟奥長はとく合も出 `しが地たい `名 たしかとに、コ村お、が一文恵来三て出験、で耳古 `でも残女ン先三一出七化ままツ何来風鈴楽塚屋 一所女念子ク生方〉来時セれし井時た先木し昇へ 緒作子でと「親の本ままン千た副も事生精く風向

感でに早の

い進受上然営

とめ付 `なを

思ら、準が担

いれ目備ら当

またの要初す

すこ回員める

°とるもて三

によ開の河

拍う場体岳

手な時験精

と中間。会

程

の神

未楽

熟坂

者教

が場

岳に

精お

流世

日話

本に

吟な

院つ

全て

国七

吟か

道月

岭

道

大

会

初

神参

楽加

坂

浪

昌

大

でもでしもル娘独部しで夕五

さ上三外 一の幾田

取そ州とし合月を員

りの、ばた文十基が

組準名」 °化五本居

セ目に住

ン朝各す

夕 `教る

ま備古で

れは屋総

た二に本

と年続部

記以き以

教おを宮成過先い

す下た役 の手よ割今 ででうを回 `もな持` ま 気の会 たま分た場 声だととで を体ない弁 か力りう当 けにまこ係 てはしとを 下自たで担 さ信。仲当 いが吟間し

°あはにま

りま入し

まだれた

玉 吟 道 大 桜会 ケに 丘参 加 内し 藤て 悦

全

子

しよを古天大し前 大そキが千顔に 会んを高代 、満大たう覚の空さま日愛 全 玉 でなり鳴田顔ち会 °にえ人のはしは知 吟 し気クる女が溢当 」ま々天見た名の としの守事。古地 道 た迫ワっ子それ日 大 ゚゚でクさのこての 思た知閣で展屋を 臨へあ合にい会 わ。恵のし示泊路 会 に んと `吟有ま場 ず明と屋たさまん 合日技根 °れりだ 新参 だ変いでりしは 陵加 刈心ざ舞また気 掌は術にどて `の 谷術出台し°圧 `恙の設のい名は し 和て でを陣へた自さ のかだ、°信れ H 全け一胸いにる 博 国まドのよ満雰 之 吟しキ鼓いち囲

汗教たしとた た式し場でルも全刈 加典まメすでに国谷 藤でしン°合ヤ吟市 特、たパ当吟ル道総 別昨。1日し気大合 のはたが会文 顧年 弁弁時漲は化 問秋 のに 当当はつ、セ 暖講 を係ラて素ン 確をイい晴夕 か演 いを 保扣トまらし 心聴 す当がししで 情か るし眩たく開 のてし °質催 にせ 再て におか大・さ び頂 一りっホ量れ

2

道たド動よた気

そな偉置よた古初 しく大しう金屋め て臨さたにの城て

念めにも運鯱をで じま感の搬の見し ます動かし巨学た

小 田 急 沿 線 生の 田ご K 教挨 初 Ø 場拶 拠 長 点 で 井 す H 新 舜 泉 宿 か

7

公Jク

関Rセ

ン祥

下寺

徒ま

歩た

二は

分京

王

線

吉

祥

寺

車

教

場

開

設

いで「にしをの触 出の 象 会摩六に招まい来した思産れ つ耗十残待すい年 ` °いみる ても代る吟。」は大ま浮のこ 良感もも詠 と来きたか親と 仰れな `べでが かじ後の・ つる半で詩 せな存初なあで たこにし舞 らい在めがるき れかをてら手 とのなた及 思頃り。び 言も感横話塚顧 つで ` 構 葉しじ山を治問 てすそ がれる岳聴虫と 成 耳なと精い氏鉄 いがれ 吟 `な ح にい共家てと腕 ま 残、に元おのア す詩り t °吟に に っそ `をり交ト 印 てれ 目ま流ム

讲 H 教 場 が 新 設 さ n ま L

こをハた れ開ザが小 で設マ、田 千。教か急 代今場ね沿 田後でて線 はのこよは 廿躍のりこ 八進度開れ 教を「設ま 場期ハをで と待ザ目空 ないマ指白 りた生し地 まし田て帯 しま教いで たす場たし

た に体 たんも会 の出ら しで目員まを三二一も来三 まい標数た掲、、、とま〇 すきには `げ新吟活 `し分 を お ま向八現て人詠気よた以 すか名在いがレあり。内 0

詩家 公産 開って

講し知 座たら の宗せ 会家し 場を、 が講鈴 次師木 のと会 通し長 りての 決お巻 ま迎頭

りえ言

活おん 動手で当とが吟宗ましに前 を元参然い `の家して有号 おにり `う同魅のた公りで 願届ま千成好力吟。開まお いきす代果層を詠 しま°田がの感を ます案と期拡じ多 す °内し待大てく °各ちてさに頂の 教ら会れ繋く方 場しをまが場々 そが挙すりをに れ八げ。 `設披 会け露 ぞ月て 員るし れ中取

最

寄

駅

三 十小っ川ハ

○第分田五崎ザ

急反市マ

線田多生

生自摩田

田治区教

駅会生場

1

+

加と詩

か館田

らし七

徒

歩

7

開

催

H

時

分二

5 .

十四

六金

開開

三日

Ο,

分十

四

時

教

副副教教場

教教場場体

場場長顧制

長長 問

二清井加

反水田藤

奉新舜虎

泉泉泉風

슾

場

一〇四二十 (蔵野市吉 一八十十 十四時~十 十四時~十

| i 吉会

二二祥堂

六

1

五

口吉スな一武武士平

H

時

H

所教

在場

地名

ご田会十の年会 健かへ四東の優廿 闘ら堂日日東勝二 をは々笹本京の年 期、と川地大実に 待勿駒記区会績は し論を念大優も `初勧館会勝あビ 朗めめででにるク 報てら開二続実タ をのれ催位き力し 待快まのと `者剣 ち挙し全な七で詩 までた国り月す舞 しす。決、甘が全 °千勝九七 `国 ょ

代大月日今大

い進ら

のっと四き入べる良ハに でてな名ま会ル明いず教 支教りのすしのる教マ場 援場ま新 °や高く場支を 宜一し会 すい楽を部開 い教し目教設 し丸た員 教場い標場す くと°が おなこ入 場 教にのる でこ 願っれ会 いてかし 支と

援が

全小

国谷

剣野

詩弘

舞山

コさ

ンん

1)熊

川谷

大副

会教

出長

場~

場

ク

初

伝

審

查

K

ハち

ザな

マん

草

間

朱

泉

7

×

初※

雅※

号※

の※

ご※

感※

想※

×

う。

ーー 四二寺パパ 時 月 南丨 町プ 廿 IV 日 亦 1 木 JV 増こて のに組 身。よわ審探れ向のの

。て聞は

す見はえた「我あ順練時見宿なし貴」か経 [」]え先る °草夢ま番習間付のさっ女いわを私私 とて生のす間中りををがけ駅いかはよれとのの 言`のはるさで足待し来てにしり`いまな吟主 っ思お大とん吟がちたるホ下と落いよすえを人 `゚じが`りまッり背着つ しずがで先とまく私しでと吟中いも今 まっとし生呼しがのて、すのをて落日 い先てたがばたく出、音る友押前着は ま生もね笑れ。、番い合。をさをき吟 し有や一顔て た難さとで我審体途いせ査していな審 °うし、「に査が端よや会、電てい査 ごいそ二返の震に会声場そ車吟人日 ざ仏の句り先え緊場出にのにじだで い様時をま生て張へし着姿 `てかす まに私覚しに無の `のきを原来らね

いい僧 るて侶 よはで う何す で時 すも ねっ 一下 と手 かな らお

3

はも お今間半の ¬ `長吟り回大ば奥泉去 皆年道まの勢が深っる 同続のす昇の過さを四 様け修。伝諸ぎを頂月 の先よ噛くの にて錬 やおも 運生うみこ昇 び方としと伝 nn à とのしめが審 ばま私 やすは な熱てな出査 るが別 り心おが来に 程、に 深なりらまお に道剣 く指ま `しい 感導す早たて 即と道 席言の 謝の。や。 でう修 しもそ三詩雅 はの錬 てとの年吟号

意け名を先はす等に 生そ指

で為ふ力 `を流て」にて会本り

すにさづ節拝全いを向感の教強

°もわけ調聴国き会け謝鈴場く 健しらでし吟た `てい木長こ

康いれ表 `道い教 `た会 `の

管吟ま現諸大と場自し長村四

理詠しし先会思の分ま他上年

ににた感輩」い活なす諸顧間

初

生伝

田を

副受

教審

場し

長て

又

 \mathbf{H}

奉

泉

して実呼生素。を描次のし導一とで居た陰年岳

せおま城頃に の熱すのち 年来 進今ず陰す先声挑昇ごの。雅に仕九の平 を後 `さ」生に戦伝支ここ号な事か紅成 重も健まとのはし審援もれをつを月一廿 ねっ康でお講自て査のつも頂た持が点二 て泉に、褒評信「で賜た、きにつ過と年 ま」過詩めでが春は物ご徳大もでぎ言十 いのご吟頂「な風。と指本変拘いまわー り雅しをききか一音感導教光らるしれ月 た号て始恐れつを程謝と場栄ず為たて ` いにおめ縮いた吟をし周長に ` ` 。入清 と恥りてしなのじ四て囲 、思こ教 会水 思じまかて声でま本おの村つの場 し数 、場 いぬすらいをすしかり諸上て度も まよ °大ましがたらま先顧お「欠 早開 病すて、°六す輩問り泉席 や設 も °い山日本 °方のま」が 三以

> 昇 伝

お導

すすで吟先はるま楽た出続とな 。。 `友生続吟すしがすけ痛い 中審 今一共方け詠 °さ少こる感奥 後途々 `るが何もしとにしの 野查 とに吟先事出時覚ず等あな深 副を 教受 も精の輩だ来にえつ `たがさ 宜進楽諸とるなてで私りらを 場け ししし氏思かれ来すの詩の感 長て くたさのつ判ばたが一を今じ ごいを指てり諸よ克番理日さ 小 蔦 指とこ導おま先う服苦解こせ 導思れをりせ輩にし手すのら おっか受まん方感てなる頃れ IF. 願てらけすがのじ `ここでる 泉

もか岳 世然の

しり人が

有の

号

を

頂

45

7

原

П

美

泉

まま生ら諸ずありはしををだ来

いおのな。`味て今ととすも

愛っさのさ

まのおでで声吟の出

難先今

う生日

ご並、 ざび無

いに事

まハに

しザ終

たマわ

のり

先ま

生し

方た

本 `

当審

に査

,事

て精共び方晴先通くへごてくかなき易。さ度精 い進に込のら日し「の指千だらり、作春まの会 くを初む詩しのて漢ス導代さ熱ま結を盛で初に つ 、伝吟情い ¬精詩テに田っ心し果心り初伝入 もそ位詠を吟岳進吟ツ改岳たにた伝心の伝審会 りのにに声詠精し詠プめ精徳粘。位晴四位査し をれ月を受て 拝やに頂験四 受か指くの年 でに定こ機経 き落吟と会ち 爽着のがを ` 快い「出も平 なて春来ら成 一吟風まい廿

日詠白しお六

留向。動、でま動り。先問ご かな在上募年すばわ 磨同年 終軍 戦予そら性学のりをる `れ幼しじ間大 を科しも格中陸選終初当る年あ目 `槻 迎出て頼と `軍ん了等時世学つ的仙二 え官私り相故士だしの祖に校たの台郎 て学達にま人官者た学国なと同下陸君 `校はさっは学を全校をりい期に軍と やに同れて文校三国で護まう生寝幼私 む進校で仲武へ年のしるしとで食年は な学をい間両送間少た軍た幼しを学、 くし三まだ道り教年。隊が稚た共校か 復た月しけに出育か中の `園 °にへの 員年卒たで秀す指ら学幹端の し仙大 さの業°なで役導希の部的類 て幼戦 切一中 く `割し望一をにか せ八し 後快でて者く養言と 磋での ら月 、 れ、陸 輩活す `を二成え思 琢、三

槻 郎 鉾 風 顧し 問君 を 渋偲 る谷 辰

大

願に諸りり精昇代 `短私着正せ雅せ雅 い改先でと流伝が歴いのを弘て号て号 申め生す学の審若史世所持しいを頂っ して方。び目査返あ代属っのき一き正 `指`りるがすて分ま歩ま泉 上感か 正す温つ千中る励身すーしい げ謝ら し吟習つ代心清んで°歩たへ ましの く詠会あ田に水であ両、。し す、暖 °今か 受道のる岳な中いる親ゆ吟ょ 後く けを場と精つ野きこかつ学う 継若な聞会て教まとらく精せ とも も厳 い年どいもい場すを授り進ん で組もて全まは。自けでに よし ろい いも含い体す入 覚らも向を しご くしめま的 °会 しれ成け申 く指 つってすに必年 、た長こ請

風

4

挙でなき豪し習遊吟もさこ生勉りう「勝あ述中綴に 声にへさ前合の誘 に千に、が日傑いっとじのはと涯強詩かこ手のべでっあたをしのせにっ本い平く君別の い代英こらをでもていたを今とうし吟とのに世ら大たたま張て道ら誘て社を成れはれで と田雄の過懐あのいう後味更なちての勧度要かれ槻文るたりい中れわ嬉に受七て常てす ま岳が辺ごかればるこのわ言っこお虜め `約らて君集のま上た `たれし伺け年いに行 は精同がしし所か漢と清ううためりにらたさ叱いはがを同げこ常のていつ `八ま同つ戦 あ会志共たみ詮り詩に涼事ま °る `なれませらま「作機じてとには始驚た言月し期た後 りでに感い、はではな感とで私もそったたてれす詩らに頃い。「、めきらわ、た会のは まのなをと残人あ、る、、もののこて。まもる。吟れ、。るそ家遠た。何れ私。ので夫 せ故る呼顧余間るそだそ吟な発とで週以友らか本したそ仙とし元いと聞とるは ん人所ぶうのでがれろしずい見し初二来人いも人にのれ幼聞ての逗のけ見ま縁 心が がの以所の人、`ぞうてるがしてめ回八かましにつでぞ卒い毎テ子事ば慣まあ 的 `新 `貢ででは生老如れ °吟事 `た `て東からすれ断いすれ業た日 | か °彼れにっ 役そた 私献ああ当をい何に:友の漢詩認こ京月詩°まわてがの五こープら先もた明て 割れな せりの、思十と時一都ず数顔治詩 をで人 にはるりた楽てに素:と快詩吟知れへす吟 んな実そい周で間を心感かに生吟 果も生 と、:、りしは英晴私の感そのすこ出っは がく感のを年すは耳へ心月出命の た大へ っ枚一一前み若雄らが交 `の良るそてかど

今千袂程

日重わ遠

ののかか

別波つら

れ路はぬ

をを憂旅

如隔きだ

何つもに

にべのも

せきを

W

前◇ 山◇ 水よれしるか言場 田丸 口丸いで道少 う `たとなうへ健 のますの々こ 戸昭内す °世他の と自 ° `いこ参康 っ蔵第の一界流度優思分毎っととり維薫第 子氏二でかで派、氏っな回気諦にま持さ二会 で、日宜らはの縁へてり、持め驚しのん支員 あ七暮し精 `経が七おに先ちまきたたへ部 る月里く進駆験あ月りも生がし、°め六教紹 入教おしけはり入まうや良た音まと月場 そ会場願て出有入会す少諸いが痴ず軽入 。し先!、の吟い会 いいしり会し n' 頑輩一終自譜気 しきのま致 ŧ 張にとわ分が持 また駆すし 浅 っ励思っにあち すいけがま 草 てまいてはるで 。 と出、 レ で みさまみ向と教 思し吟た

魅なしたりる旨詩けて の通 歌夜好了達て。| かに歌るは をに漢さ筆内今ダら賛研影何 献は惜れに容でしと同修響と じ、したな豊もと積し会の言 て同むとる富話し極てを大っ 冥期べいもな題て的 `発きて 福のしうの資に十に自足きも を友。こで料な年参分ささっ 祈と七と 'のる間加とせで詩 りと月で又作一支ししたす歌 まも一すそ成つえ `て当 。研 しに日 °のははてやも初十修 話全、くが勉か二会 たっ故 にて講れて強ら年し °遠人 は見師まサに、前に 離の 皆事としブな趣にお 別お

唐◇ 小◇ 沢丸がとすうらしの 原い得っ会定常極をシる 林丸れににこなき吟 心間教出詩詩ス のて近なえと込を高 の芽ががちずた突ご と意たさ例でめ迎ョ な、場す吟吟ポ私 ご菅を声はをしは清内入いりてつま聞校民内生出、に不。然近玲期の事れ落はらえン彼 指原見等非勧ツ、人清会大、「ぶれいの雄第え来漢吟安詩の所子待力もた語なれたにの 銘と木変康 `通手月 し先会興に早い術入 場自さ酒習然同会 `生長味良速 `し会 に宅い井つと窓 鳥方、をいネそ体 同の一帆てし生 肌の磯持とツこ力 行あと風みたの の真田ち `トで回 しるい氏よ声詩 立摯常ま腹検先復 て辻うにうにの

く堂事間か引独

つで任しか索輩の

思熱顧たら 、に為

導教学々常めク腰氏流し船七ぜやてて同氏二てる詩ずで吟おのさしラ ` °会いたと住っ に場、、にらラ痛(教まの月ひい、、窓(鎌き事やるしと誘友んて才詩加で。といま駒 感長鈴大健れブで八場し鎌半やた自そ会七倉まに和こたいい人へいケ吟齢知浅聞うつ形 た倉ばりの分ので月教し段歌とがうで、七る同への己草くにてど °教 `ながも粛 `入場た々にの `も入石月 °様の所を合 `穂おぜ °チつ難何の会倉入へ、動以得羽足高らう ャいし度もし睦会名吟機か `橋腰なれ」 レてさか 、て美 一倉のと声縁ののどるの 上いがあっ強の 。裏 ンもは参全しさ 隆達わ細っ喜さ山八の ジ学勿加くまん 雄もれくて久は頂十マ 精ぶ論す分いか **〜早るな入鮨尋を路ン** 神こでるかまら

Ш 関◇ 本ご思詩日たあ二・1一根ハし再輩い信酒 指い吟頃 °る、水九、 ザまチに を、一 へしたらレ\奉動・1・ 人教 八くしれス三泉機彫ルゴ三場 月おまるを度氏 塑イル月 入願しよ発大か会 ンフ入 会いたう散きら社 ワ〜会 ~い°にしな紹時 ン最ご た皆な、声介代 一近 し様り願をさの 回の まかたわ出れ先 ンス すらいくしま輩 コ °のとば、しで 7

木八理日口陽ね頼に気二た頃 藤東のくい ザ解 、癖のた山なに回が考仕 陽で追で 正導入がの月二入彩二趣紀マレヤ誘三持カ、美マレ天だ気だ陽っせ目、え事洋町、いし 和よ会吟スに反会画、味雄生たレわ、つラ趣憲新見井っ持けのたず仕電も一子神ごつた 氏ろいじト二田の ホ 氏田 °ンれ入て才味氏陵事をたちで詩。、事話し筋さ楽指く ジて会吟ケ (教な破のがは吟小来でしたのん坂導よ即 し'のじ 海七場吟るを判意を柄ら行て °人 (教宜う入 た以動ら二釣月 、よ思る味詠でれけ即中生七場し一会 い前機れ、八入 私ういよがじ男るず日々、月 く生を とか る目船会 のな出うなて気時 、入踏心入 お縣決 思じ大よ標~ 心大し努い `のに連会みの会 顧命意 いっ学う 読 に声まめ、人あと絡し込余ン い頭。 入た時に人書 合 `しな少はる言すまめ裕 し張一 会詩代な前。 致詩たさし歳恩わるしなと まり日 い吟のりで雑 し情°いはを師れとたか常 す増も たに後た自誌 たを初が山重が楽 、。つ日 『す早

佐�

宿て理しらにわ °たて私

まて自るし味の田ま役

しみ分事たが教さすで

たたもは作分室ん °漁

°く感と者か見の今師

な性てのり学勧回さ

りやも心までめ `ん

`心難境せ詩で店の

今境しをんを入に店

回をい理で吟会来で

参少と解しずして仕

加し感したるま下事

青◇

伊 湯◇ 集練手謙先新吟同 院習い信生宿に窓酒 宿うがてん誘か少 後よ作。教興会井直第引まお大いらし尚いた正会す和「服照教頂解た吟表れ七二おは 範の」を「場味で繁一三きたらきを「早子まい月なっ服」、子場きし。ずわ意月反り現 子食と教九でを熱行氏教込楽れな受楽くさす。のどかを友詩さ さ事乗え月はも演君へ場ましま声けし入ん °そ会 `り着人吟ん んへせら十 `ちしと七 ←酒られ三 、 、 て高月 八?れ、夜君そい校入 月~、す陣」のる同会 入もつぐ中で気の期~ 会最い独のはにをの 高に吟作なな聞諸 °入 ` くっい君 会「上酒たてが 上杉井°詩、

田新と会しさおん 川んて来初はれの「藤新せもまが詩言たっし でみ年吟 ` `よ和 れくしでまい会へ た 、た素しかし八 の話。晴たらて月 で題そら。 `い入 すものし教来た会 °豊あい室て町〜 富と吟でみ田 でのをはて恵 と食披 い子 う事露皆とさ

小

祈し ◆をれ十分務ま りた平肃おま九室めし平大 い、成根祈し年を、た成棚 た享廿 りた間開平。廿 し年六惇い °に設成永六鉾 ま七年風た享亘さ廿年年風 す十八氏し年りれ二清六氏 °九月 ↓ま八大 `年水月 ∠ 歳五東す十き千六教廿逗 日陽 。六な代月場八葉 ご逝町 歳功田地副日教 冥去从 績の元教逝場 福さ会 ごを発で場去長 をれ中 冥残展逗長さ おまい 福さに葉をれ

さでじながとしさを 根◇ て界でと知け いが `ばのて七 ま楽心か世入月昌谷 すし身り界会に純教 °めのでで致学氏場 宜る健す し友 。 しよ康[°]発ま酒七

んで和乗るのをへ

なは服り機乙や七

気 `姿気会訓っ月

持和がにが稜て入

ち服普な減代い会

で姿通りっさる~

練でのまてん人

習吟よしいにが

に詠うたた誘い

励し。°私わる

くうに喜声し井月 おに努寿もた繁入 顧なめの吟°行会 いりて手譜詩君と した `習も吟の まい詩い戸は誘 すと吟で惑全い °思のすうくを つ世のこ未受

本鎌た気そ詩とし輩 °でこ吟若たの長 楽でがさ。酒野 し いを 「井県 そ新い保若教飯 う宿よちい場田 °教 °たね長高 よ場林い」さ校 しをさしとんの `見んと酒の同 と学達私井そ窓 入。も、さば会 会皆いっんにで しさるな「座四 まんよらもり年 し元」 こっま先

佐〇

のこかく1 秋とにれプ前 でな吟て口号 すくじいがで °着るま有 ` 実秋す難緊 にが°い急 歩き中こ登 をま天と場 進しのにし めた名現た て。月在セ い立をもコ へるち賞稼ハ 八千止で動ン 田代ま高しの

一田るらてワ

編

集

記

6